

# NGV NATURAL GAS VEHICLE

環境対策は「もったいない」文化  
天然ガス自動車導入は  
ビジネスチャンス

## 天然ガス自動車ショー2005



(株)日本ガス協会と東京ガス(株)は、去る9月14日(水)、新宿パークタワーにおいて「天然ガス自動車ショー2005」を開催した。京都議定書発効に伴う運輸分野のCO<sub>2</sub>(二酸化炭素)削減対策、今年10月から開始される新長期排出ガス規制への対応、平成18年4月より施行される改正省エネ法など、地球環境の改善に貢献できる「天然ガス自動車」の本格的普及が期待されている今日、「天然ガス自動車」の理解を深めることができるよう、各種車両や燃料充填設備等を展示、有識者による講演会やパネルディスカッションを通じ天然ガス自動車の更なる導入を訴えた。

### 天然ガスとは？

天然ガスは、メタンを主成分とした無色透明・高カロリーの可燃性ガスで、CO<sub>2</sub>排出量は単位発熱量比でガソリン・軽油より約25%少ない燃料である。天然ガスは、中東に偏ることなく世界各国に大量に埋蔵されていると考えられており、平成16年12月時点で約180兆m<sup>3</sup>が確認されている。可採年数は67年と石油に比べ26年も長く、新しいガス田も次々と発見されるなど、将来的な埋蔵量は現在の3倍程度と予測されている。



ゴルフカートを改造し天然ガス自動車の試乗車を製作

### 天然ガス自動車の低公害性

天然ガス自動車は、燃料電池自動車のような革新的な技術の必要が無く、地球温暖化の原因となるCO<sub>2</sub>の排出量はガソリン車・ディーゼル車より1~2割低減、光化学スモッグの原因となるNO<sub>x</sub>(窒素酸化物)、CO(一酸化炭素)、HC(炭化水素)の排出量も少なく、SO<sub>x</sub>(硫黄酸化物)の排出量はゼロ、喘息等の原因となる黒煙や粒子状物質はほとんど排出されないクリーンな自動車である。性能は、エンジン出力、トルクはガソリン車やディーゼル車とほぼ同等の上、ディーゼル車と比べて騒音・振動は大幅に改善される。

### 講演会・パネルディスカッション

講演会では、(財)日本エネルギー経済研究所の十市常務理事が「エネルギー・地球温暖化問題と天然ガスの役割」をテーマに講演を行い、石油依存からの脱却と京都議定書の温室効果ガスを削減するには、原油に比べて安定した価格で推移するCO<sub>2</sub>排出量の少ない「天然ガス」を燃料とした自動車の普及が大きな役割を担うこと



車両をカットし、天然ガス自動車の構造を展示



環境と走りを融合したレガシィB4 2.0CNG



一堂に集結したCNGトラック

を各種データから説明、また、将来の省エネ型社会の実現には、資源やエネルギーを大事に使うという日本の「もったいない」文化を世界に広めることが必要と語った。

続けて開催されたパネルディスカッションでは、経済産業省の三木省エネルギー対策課長ら5名のパネラーにより「省エネ法改正を踏まえた天然ガス自動車の果たす役割」をテーマにディスカッションが行われた。省エネ法改正によって運送事業者と荷主に対し、輸送や運搬の効率を上げるための計画策定と使用エネルギー量の報告を義務づけることを説明し、天然ガス自動車を含めた低燃費・低公害車の導入とエコドライブの実施は環境保全ばかりでなく、運送事業者にとって大口荷主からの仕事を受けるビッグチャンスとなることを訴えていた。

## 天然ガス自動車の導入には

天然ガス自動車は、主にディーゼル代替の低公害車としてトラックを中心に導入が進み、全国で24,263台が普及している。導入時には国や地方公共団体の補助制度や団体の助成制度があり、導入の壁も低くなっている。

今後、行政ではCO<sub>2</sub>排出量削減取り組み強化や、都市内交通分野での天然ガス自動車重点利用促進、石油依存度低減のための天然ガス由来の燃料の利用可能性を追求するとしている。

天然ガス自動車の燃料は都市ガスの圧力を上げる充填装置を付ければ家庭でも供給できることや、燃料代のメリットがあることから、マイカーとして購入を考える人が増えてくるであろう。



北米で発売された家庭用小型充てん機(参考展示)



講演を行う日本エネルギー経済研究所の十市常務

## パネルディスカッションの様様

